

## 教育課程・指導計画の改訂に向かって2

別府大学附属幼稚園 研究主任 原 田 美 穂  
4歳児担任 岡 方 梨 音

### 1. はじめに

令和4年度より取り組んでいる教育課程・指導計画の改訂に向かって引き続き、園内研修を行っている。

平成22年発行の教育課程では「月ごとの指導計画から第Ⅰ期～Ⅳ期の指導計画へ」「遊びの連続性の標記」を中心に改訂を行った。

今改訂では「幼稚園教育において育みたい資質・能力」に視点を当て、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と附属幼稚園の子どもの姿を照らし合わせながら、問題点を明確化するようにしている。

現段階で特に気を付けていることは、子どもたちが夢中になって遊んでいる姿を記録し、エピソード記述から考察をしたり、写真記録から保育ドキュメンテーションを行ったりする中で理想が先行して実態とは違う教育課程になっていないかを振り返ることである。

そのような話し合いを繰り返し、新たな気づきや文章の違和感などを出し合い、さらに話し合いを重ねることで、子どもが主体となっているか、教師の願いがしっかりと込められているかといった附属幼稚園らしさが見える書き表し方に近づいてきた。

実態から子どもの姿を読み取り、教育課程に照らし合わせていくことを繰り返してきた研修内容を4歳児の姿を中心に報告する。

### 2. 令和4年度研究テーマ

“やってみたい”から夢中になって遊び込む  
～子どもの姿を読みとり環境構成につなげる～

安心・安定し自己を表出すること、人やものに関わろうとする意欲、友達と一緒に創り上げていく協同性や学びにつなげるためには、幼児期に十分遊び、さらに遊び込みその中で学ぶことが必要だと考えている。

### 3. 研究について

#### (1) 研究の進め方

- ① 各学年の公開研修を行い、全職員で観察・記録を取った後に「子どもの姿・教師の援助・教師の思い」が分かるようにエピソード記述にして“夢中になって遊ぶには”を探る。
- ② P（計画）D（実践）C（評価）A（改善）サイクルを行い、ステップ案や教育課程に活かし、再度実態と文章に開きがないか照らし合わせていく。
- ③ 初等教育科渡邊はるか先生、石川千穂子先生に保育を観察していただき、助言やアドバイスを教育課程改訂編成に活かす。

## (2) 実践事例Ⅰ—1 4歳児第Ⅱ期「やってみたい」の心を引き出す援助・環境構成」

記録対象児…4歳児 A児（女児）

- “面白そう”“楽しい”と感じた時には遊びに参加し、自分の思いを言葉にしたり、表情で表したりする。
- 遊びの中で強い思いがあると友達が入ることを拒んだり、自分の思いを言葉で表さず手が出たりしていざこざになることが多い。また、興味をもった遊びに自分から関わるものの、繰り返し楽しんだり遊びが長く続いたりすることが少ない。

A児へのねがい

- 興味をもった遊びに参加し、楽しさを感じて繰り返し遊んでほしい。
- 保育者や友達と一緒に全身を使って遊ぶ楽しさを感じてほしい。

### エピソード①

令和5年 6月19日

天気：晴 場所：園庭

#### 担任が遊んでいる巧技台に心を動かしたA児

4歳児の第Ⅱ期に「戸外に出て遊ぶ楽しさを味わえるように巧技台を準備する。」と環境構成に記されている。

今年度も第Ⅱ期のねらい達成に向かって戸外に巧技台を設置した。A児は興味をもったように橋を渡ったり台に登ったりしたが、長くは続かなかった。

“何をしようかな”といったような表情で見渡していたところに、担任が巧技台で遊ぶ姿を見つけた。すると、すぐに近づいて巧技台遊びを始めた。両手を広げてバランスをとりながら一歩ずつゆっくりと進み、渡り終わると厚手のマットに飛び降りた。マットの上を20回ほどジャンプし、落ちてもまたマットに登って飛び続けた。

次に一本橋へ向かう台に登ると、向かい側からS児が来ていて鉢合わせになる。降りたのはA児で、また一本橋を渡ってマットに飛び降りた。その後、M児やT児と一緒に「1, 2の3！ジャンプ！」と飛び降りたり、巧技台のコースを一緒に進んだりした。



自分なりのやり方でジャンプを楽しむA児



T児が跳ぶのを待っているA児



T児と一緒に跳ぶことを喜ぶA児

<“やってみたい”の心を引き出したのは>

- 様々な体の動きを試することができる巧技台。
- 大好きな担任の存在。
- 同じような動きを一緒に楽しむ友達 came こと。

## 教育課程・指導計画を見直そう！

(エピソード①から)

### <教育課程4歳児第Ⅱ期と照らし合わせる>

- 巧技台という遊びの道具は興味をもちやすく、バランスやジャンプなど緊張や刺激を全身で味わえるため、この時期に紹介する遊びとして適していると思われる。
- 担任がいることで遊びに入っていたA児の姿から第Ⅱ期の子どもたちにとって担任は安心できる存在となっていることがわかる。
- 体を十分に動かして遊ぶものではあるが、巧技台という環境を介して友達とつながっていくことが分かる。環境構成と援助のポイントに書き表すと良いのではないか。
- 遊びの途中で、目についた教師やダンゴムシ探しに続く姿から、新入・進級で環境が変わり、安心できる場や人を求める姿が見られる。この時期は、まだ安心できる教師が十分に関わることやいつでも遊びが目につく場作りが重要であると考え、子どもの姿に書き加える必要があると思われる。

A児が“やってみよう”と心を動かして夢中になって遊ぶには、心を揺り動かされる遊びや道具とともに担任との深い関わりは必要だとわかった。このことから第Ⅱ期のねらい「保育者や友達といろいろな素材にかかわり、自分なりに試したり工夫したりして楽しむ。」に記されている「保育者」は子どもたちの安心につながる存在であることを書き表す必要がある。

## 第Ⅱ期 3年課程

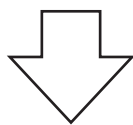
### 【現・教育課程】

#### ねらい

- ◎保育者や友達といろいろな素材にかかわり、自分なりに試したり工夫したりして楽しむ。

#### 内容

- 友達や保育者とかがわりながら、好きな遊びを十分に楽しむ。
- 戸外で体を動かして遊ぶ楽しさや心地よさを味わう。



### 【新教育課程へ】

#### 子どもの姿を付加

(新)

- ◇興味のある遊びや目新しい遊びには参加はするものの、保育者の側を離れなかったり、自分の居場所を探したり、何をしようかなといろいろな場や遊びに移ったりしながら過ごす姿も見られる。

#### 環境構成と援助のポイントを付加

(新)

- 保育者が安心できる存在となるように、十分に関わりながら一緒に遊んでいく。また、様々な遊びが目につくような環境を工夫していく。

### (3) 実践事例Ⅰ—2 4歳児第Ⅳ期「“やろうよ！一緒に！”と心が動く援助・環境構成」

記録対象児…実践事例Ⅰ—1と同じ4歳児A児（女児）

- 同じ遊びに興味をもった友達に遊びを通して自分から関わるようになっている。
- アンテナを張り、面白そうと感じると他のクラスの遊びでも参加する。
- 自分の思いは一方的ではあるが言葉で伝えようとする。
- 気に入っているリズムなどは一人でも繰り返し踊って楽しむ。

A児へのねがい

- 自分の思いを伝えるとともに相手の思いを受け入れ、友達と考えを出し合って遊ぶ面白さを感じてほしい。

#### エピソード②

令和5年11月20日

天気：晴 場所：すみれ組

#### アイドルごっこに強く魅かれて繰り返し遊ぶA児

S児とI児が制作コーナーで髪飾りを作って遊んでいた。担任が「それかわいいね。アイドルみたいだね。」と話しているとA児が近づき「アイドルしたい！」と伝えにきた。担任が音楽を準備すると、「ステージがあるよ。」とステージを作り始めた。その姿を見たH児、T児、M児が興味をもちアイドルごっこに加わった。A児はその友達を拒まず受け入れる。A児が「お客さんが座る椅子もあるよ！」といい、H児が椅子を並べると「そっちじゃないよ！こっち！」と並べる場所を変える。5分後、ステージが完成しスカートを履いたりマイクを準備したりしてアイドルごっこが始まった。音楽によって体を動かしたり友達と振り付けを考えたりして楽しむA児。曲の決まったフレーズの中で友達と手を繋いだりポーズを揃えたりする姿も見られた。この日は約30分程アイドルごっこを友達と一緒に楽しんだ。翌日、A児の方から「今日もアイドルがしたい！」と担任に伝えにくる。S児が持っていた髪飾りを見て「これつけたい！」と言い、担任が髪飾りをつけた。その様子を見ていたH児、T児、M児も「欲しい！」と言い、同じアイテムを作り、それを付けてアイドルごっこを楽しんだ。次の日も、同じアイテムを身に着けアイドルごっこを始めるA児。「T児も呼ばんと！」「まだH児が来てない！」と友達を誘ったり求めたりする姿が見られた。その後も、同じ友達と一緒にアイドルごっこを繰り返した。



友達と同じアイテムを身に着けて遊ぶA児（左）



音楽に合わせて踊り、表現を楽しむA児（左）



友達と手を繋ぎ、2人での表現を考えたりポーズを揃えたりするA児（左）

<体と心を踊らせ、繰り返し遊んだのは>

- 本児が強く興味をもっている“アイドルになれる”という大きな期待が膨らんだ。
- 大好きなリズム表現であった。
- お客さんを呼ぶ、ステージを作るなどイメージを出して自分の力を発揮できた。さらに友達に

- 認められる喜びを味わった。
- 友達と同じアイテムを身に着け、つながりを感じている。
  - “アイドルがしたい”というA児の思いやアイドルごっこのイメージを読み取った担任の存在。

### 教育課程・指導計画を見直そう！

(エピソード②から)

#### < 4歳児第Ⅳ期と照らし合わせる >

- さらに“楽しくしたい”という思いが自分の考えを言葉で伝える力になったり、相手の話を聞こうとする態度が育まれたりしている。ねらいを達成していると考えられる。
- 自分なりのイメージを音楽に合わせて表現するだけでなく、一緒に踊っている友達と合わせようとする第Ⅴ期の育ちが感じられる。
- 友達と同じ場や遊びの中で、自分の考えや思いを出したり、友達の考えを聞いたりしながら、やりたいと思ったときに取り組める遊びの場を残しておくなどの環境構成が大切であると考えられる。

自分の好きなこと、自分の力を発揮できる遊びによって遊びへの意欲が高まり、自分の考えを進んで出している。また、アイドルごっこへの実現のため、相手の考えを聞き入れることもできた。第Ⅳ期では期の区分表の「友達と一緒に」というキャッチフレーズが適している。

### 第Ⅳ期

#### 【現・教育課程】

##### ねらい

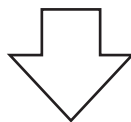
- ◎自分の思いを伝えたり思いを聞いたりしながら遊ぶことを楽しむ。

##### 内容

- 言葉で自分の思いや考えを伝えたり友達の話を聞いたりしながら遊ぶ楽しさを味わう。
- 自分なりのイメージを言葉や動きなどで表現して遊ぶ楽しさを味わう。

##### 環境構成と援助のポイント

- 自分の思いや考えを言葉で伝えている姿や友達の思いを聞こうとする姿を十分に認め、思いを出し合うことで遊びが変化したり面白くなったりすることが感じられるようにする。
  - ・友達に考えを伝える巧技台遊びやごっこ遊びの道具を準備したり、みんなが集まりやすい場を選んだりする。



#### 【新教育課程へ】

##### 環境構成と援助のポイントを付加修正

(新)

- ・友達に思いや考えを伝えられるように、みんなが集まりやすい場に巧技台やごっこ遊びの道具や素材を準備する。

## 4. まとめ

### (1) 教育課程・指導計画改訂について

昨年度から教育課程・指導計画の改訂にあたり、ありのままの子どもの姿から、指導計画を見直し、いく作業をする際に、実際にしている援助や環境構成を文章化することの難しさ、各期ごとのねらい、内容は合っているのか、遊びにおける学びはどこにつながるのかなど、話し合う中で様々な課題が出てくる。

今年度のテーマで重きをおいてきた『子どもの姿を読みとり環境構成につなげる』を常に意識し、事例研修を積み重ねることで、他職員の見解や援助の方法を知ることや次への課題も明確になったことが学びとなった。また、毎週のステップ案（週ごとを区切りとした保育案）に、『やってみたい・夢中になっている・遊び込んでいる姿』のエピソードを書くことにより、子どもの姿の読み取りの甘さに気づいたり、援助の方向性に見通しをもつなど振り返ったりする大切さを感じながら研究を進めている。

### (2) 今後の課題・次年度へ向けて

子どもの姿を読みとるとともに、評価・改善に向かうためには、子どもの姿や援助・環境構成の実態を、指導計画からステップ案にさらに細かく書き表し、理想論ではなく自分のものとなるように書き表していく必要性を感じた。職員一人一人が幼児教育の学びを深め、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を視点とし、幼児期の遊びと遊びの意味をしっかりと捉え直し、新教育課程・指導計画へ研究を進めていきたいと思う。

さらに、園内研修だけでなく令和6年度には、公開保育研究会を開き、多くの教職員の方々と附属幼稚園の保育や幼児教育について意見交換や語り合いをしながら深い学びができるように計画を進めている。

## “やってみたい”“夢中になって”“遊び込んでいる”姿 4歳児

3年課程 I期 何をしようかな？  
～落ち着く場を求めて～



3年課程 II期 こうしてみたい！  
～自分の思いを出して～



3年課程 III期 一緒にしようよ  
～自分から関わって～



3年課程 IV期 友達と一緒に  
～伝えたり聞いたりして～



3年課程 V期 気の合う友達と一緒に  
～思いや考えを出し合いながら～

